

『仲間外れにされてもいいの?』

友達と、またケンカしちゃった・・しよげている我が子に、つい言ってしまいがちな言葉ですよ。

これに対して

「まさにNGワードなんです！友達と仲良くしているだけでは成長できませんよ。『嫌われる、ことを恐れず、子ども同士のケンカから学べる機会を大切にしましょう!』と、言い切るのは、【子どもを伸ばす『いいね!』の言葉】の著者、河村 都氏。

その著書の中でこんな風に言っています。

「周りの子供たちと衝突せず、誰とでも仲良くさせたい」という思いから、子ども同士のいさかいが起こりそうになると、すぐに止めに入ったり、他の子にちょっかいを出しがちな我が子に「そんなことしたら嫌われるよ」なんて言うてしまうことはありませんか？



でも考えてみて下さい。他人との衝突が無い社会なんてあり得ません。

子どもは遊びの中のケンカを通じて、人との接し方を学び取っていくのです。ケンカの機会を奪う事は、子どもが社会を学ぶ機会を奪っているのと同じ。

ケンカや仲直りの経験を繰り返した子どもは、周囲の人との衝突を未然に防いだり、トラブルを上手くかわすことが出来る大人に育ちます。更に、叱るときは「嫌われるから」ではなく、「相手が悲しくなるから」という理由を伝えるほうが、思いやりの心が育ちますよ！とも。

☆ 子どものケンカに、大人自身も一呼吸が必要なのかもしれませんね。